

思い出すこと

大西さんの突然の訃報に大変驚いています。

大西さんは1993年に北大理学部物理学科原子核理論研究室に赴任されました。

大西さんとの関りは、主として核理論研究室の柱の一つであった「原子核反応データベースの構築」活動に於いてでした。大西さんが在任中の15年間は、核反応データベース活動が「NRDF（荷電粒子核反応データファイル）管理運営委員会」のもとに、「辞書作業部会（或いはNTX作業部会）」が定例化されて行った時期とおおよそ重なっています。

この時期はJCPRG（原子核反応データベース研究開発センター）の歴史の中でも特筆すべき時代で、JCPRGは多くの有為な若き人材を得て、NRDF採録のための各種システムの開発、NRDF辞書の更新と整備、日本国内における核反応データベースの構築拠点としての役割分担、更にはIAEA（国際原子力機関）との協力体制、等で大きな足跡を残して来しました。

大西さんは核理論研究室に着任後直ちにNRDF管理運営委員会の議長の任に就かれたと思います。着任草草管理運営委員会としてJCPRGの核反応データベース構築活動を遂行するために必要な意思決定を司って頂きました。心からお礼申し上げます。

私は大西さんが業務の立案、計画、実行、確認などの一連の過程の中で、incentiveと費用対効果との調和を意識的に追及されていることに注目しておりました。このような姿勢は核反応データベース活動に限らず、研究室における核物理の研究に於いても同様ではなかったかと推察しております。

大西さんの在任中にJCPRGの核反応データベース活動は大きく発展し変容して行きましたが、これは大西さんの指導性や研究姿勢に依るところが非常に大きかったのではないのでしょうか。

JCPRGに於ける昨今の核反応データベース活動を顧みるとき、大西さんの「incentiveと費用対効果との調和」という視点に一つのヒントがあるように思われます。

大西さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

2024年3月

能登 宏（北星学園大学名誉教授）